

法令及び定款に基づく インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表…………… 1頁～
計算書類の個別注記表…………… 12頁～
第43期（2021年1月1日から2021年12月31日まで）

オプテックスグループ株式会社

上記の連結注記表及び個別注記表につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.optexgroup.co.jp>）に掲載することにより株主の皆様に提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

・連結子会社の数 40社

・主要な連結子会社の名称

オプテックス株式会社、オプテックス・エフエー株式会社、シーシーエス株式会社、オプテックス・エムエフジー株式会社、サンリツオートメイション株式会社、ミツテック株式会社、OPTEX INCORPORATED、OPTEX SECURITY B.V.、OPTEX(DONGGUAN)CO.,LTD.

当連結会計年度において、当社が全株式を取得したミツテック株式会社を連結の範囲に含めておりますが、みなし取得日を2021年12月31日としているため、当連結会計年度においては貸借対照表のみを連結しております。

② 主要な非連結子会社の名称等

・主要な非連結子会社の名称 GARDASOFT LLC、三津科技（大連）有限公司

・連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した関連会社の数及び主要な会社等の名称

・持分法を適用した関連会社の数 1社

・主要な会社等の名称 ジックオプテックス株式会社

② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の名称等

・主要な会社等の名称

（非連結子会社）

GARDASOFT LLC、三津科技（大連）有限公司

（関連会社）

株式会社イー・ルミネックス、UWAVE SAS

・持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITED 及び CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVT.LTD.の決算日は3月31日であります。連結計算書類の作成に当たっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの連結会計年度の末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの移動平均法による原価法

たな卸資産

主として総平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

デリバティブ

時価法

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産当社及び国内連結子会社は主として定率法、在外連結子会社は主として定額（リース資産を除く）法によっております。ただし、当社及び国内連結子会社は、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については主として定額法によっております。

無形固定資産定額法によっております。

（リース資産を除く） なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）にわたる定額法によっております。

リース資産所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として連結会社間の債権債務を相殺消去した後の金額を基礎として、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- 賞与引当金……………従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。
- 役員退職慰労引当金 ……一部の国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、規定に基づく当連結会計年度末における要支給額を計上しております。

④ 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は当連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

⑤ その他連結計算書類作成のための重要な事項

退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、当社及び一部の連結子会社では簡便法を採用しております。

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法について、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

⑥ 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(5) のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で定額法により償却しております。また、金額が僅少な場合は、当該勘定が生じた年度の損益としております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度から適用し、連結注記表に(会計上の見積りに関する注記)を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(繰延税金資産の回収可能性)

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

繰延税金資産	1,954百万円
繰延税金負債	1,146百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、繰延税金資産について、将来の事業計画に基づいた課税所得によって、回収可能性があると判断した範囲において繰延税金資産を計上しております。

繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するため、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じ減少した場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

4. 追加情報

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響については、収束時期や影響額の程度を予測することは依然困難な状況ではありますが、当社グループでは現時点で入手可能な情報に基づき、その影響が今後も一定期間継続すると仮定し、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、当社グループの将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 10,788百万円

(2) 土地再評価法の適用

「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日 法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日改正）に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を土地再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日 政令第119号）第2条第4号に定める地価税法（平成3年 法律第69号）第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために、国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出したほか、第5号に定める不動産鑑定評価額に基づいて算出しております。

再評価を行った年月日 1999年12月31日

当該事業用土地の再評価直前の帳簿価額 713百万円

当該事業用土地の再評価後の帳簿価額 730百万円

なお、当該事業用土地の2021年12月31日における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額の合計額を336百万円下回っております。

6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	37,735,784株	一株	一株	37,735,784株

(2) 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	1,572,800株	644,280株	2,396株	2,214,684株

(注) 1. 自己株式の数の増加の内訳は、次のとおりであります。

- ① 取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 636,100株
- ② 譲渡制限付株式の無償取得による増加 7,800株
- ③ 単元未満株式の買取りによる増加 380株

2. 自己株式の数の減少の内訳は、次のとおりであります。

- ① ストック・オプションの行使による減少 2,300株
- ② 単元未満株式の買増請求による減少 96株

(3) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年3月26日 第42回定時株主総会	普通株式	542	15	2020年12月31日	2021年3月29日
2021年8月6日 取締役会	普通株式	542	15	2021年6月30日	2021年9月2日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年3月25日 開催予定の第43回定時株主総会	普通株式	532	利益剰余金	15	2021年12月31日	2022年3月28日

(4) 当連結会計年度の末日における新株予約権の目的である株式の種類及び数

普通株式 214,200株

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、余資は主として安全性の高い金融資産で運用しております。また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引は、営業債権の為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）に晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの社内規定に従い、取引先ごとに回収期日及び残高を管理することにより、財務状況等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建ての営業債権は為替の変動リスクに晒されておりますが、一部は先物為替予約等を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券である株式並びに債券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。債券は取締役会の承認を受けた社内方針に従い、一定の格付以上の債券を対象としているため、信用リスクは僅少であります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であり、流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）に晒されておりますが、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により管理しております。

借入金は、主に運転資金、設備投資資金及び企業買収資金であります。

デリバティブ取引は、取締役会の承認を受けた社内方針に従って行っており、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2参考照）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額 (*1)	時価 (*1)	差額
(1) 現金及び預金	17,120	17,120	—
(2) 受取手形及び売掛金	10,444	10,444	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	50	50	0
その他有価証券	1,573	1,573	—
(4) 支払手形及び買掛金	(2,589)	(2,589)	—
(5) 短期借入金	(10,520)	(10,520)	—
(6) 未払法人税等	(1,370)	(1,370)	—
(7) 長期借入金 (*2)	(375)	(374)	(0)
(8) デリバティブ取引	(1)	(1)	—

(*1) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(*2) 1年内返済予定の長期借入金を含めた残高合計を記載しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金並びに(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映していると考えられるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(8) デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格によるものであります。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	分	連結貸借対照表計上額
非上場株式		296百万円
関係会社株式		285百万円
投資事業有限責任組合出資証券		45百万円

これらについては、市場性がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

8. 貸借等不動産に関する注記

貸借等不動産に関する注記につきましては、重要性が乏しいため開示を省略しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 987円36銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 104円18銭 |

10. 企業結合に関する注記

(取得による企業結合)

当社は、2021年11月30日付でミツテック株式会社の全株式を取得し、子会社化いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ミツテック株式会社

事業の内容 自動化機械装置・画像処理検査装置の企画開発及び製造販売並びに保守サービス

② 企業結合を行った主な理由

ミツテック株式会社は、様々な産業分野向けに画像処理検査装置の企画開発、製造販売を行い、ものづくり現場の品質向上に高い技術で貢献しております。また設立以来、2次電池製造装置を手掛けており、ファクトリーオートメーションのシステムインテグレーターとして、高度なメカトロ技術や画像処理技術を、脱炭素社会になくてはならないバッテリーの製造装置などに活かしております。加えて近年は、装置のIoT対応、トレーサビリティ管理機能の充実や人工知能(AI)への取組みを強化しております。

当社グループと同社が培った技術力と生産力を融合し、ファクトリーオートメーション市場において、制御や測定の先進端末から、装置や製造ラインの構築まで、トータルソリューションを顧客に提供することで、さらなる成長が見込まれる分野での事業開拓を推し進め、グループ企業価値の向上につなげられるものと判断し、本株式取得を行うこととしました。

③ 企業結合日

2021年11月30日（みなし取得日 2021年12月31日）

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後の企業名称の変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

(2) 連結計算書類に含まれている被取得企業の業績の期間

2021年12月31日をみなし取得日としているため、貸借対照表のみを連結しており、当連結会計年度に係る連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	4,200百万円
取得原価		4,200百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

弁護士等に対する報酬・手数料等 0百万円

(5) 負ののれん発生益の金額及び発生原因

① 負ののれん発生益の金額

176百万円

② 発生原因

取得原価が企業結合時における時価純資産額を下回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその他の内訳

流動資産	4,247百万円
固定資産	1,051百万円
資産合計	5,299百万円
流動負債	303百万円
固定負債	619百万円
負債合計	923百万円

(7) 企業結合が連結会計年度の開始日の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

影響の概算額については、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 関係会社株式……………移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの……………事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの……………移動平均法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産……………定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

② 無形固定資産……………定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）にわたる定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金……………従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度から適用し、個別注記表に（会計上の見積りに関する注記）を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(繰延税金資産の回収可能性)

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

繰延税金資産 464百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結計算書類「連結注記表 3. 会計上の見積りに関する注記（繰延税金資産の回収可能性）」に記載した内容と同一であります。

4. 追加情報

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

連結計算書類「連結注記表 4. 追加情報（新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて）」に記載した内容と同一であります。

5. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 2,216百万円

(2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権 722百万円

② 長期金銭債権 41百万円

③ 短期金銭債務 1,024百万円

(3) 土地再評価法の適用

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日改正)に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を土地再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日 政令第119号）第2条第4号に定める地価税法（平成3年 法律第69号）第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために、国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出したほか、第5号に定める不動産鑑定評価額に基づいて算出しております。

再評価を行った年月日

1999年12月31日

当該事業用土地の再評価直前の帳簿価額

713百万円

当該事業用土地の再評価後の帳簿価額

730百万円

なお、当該事業用土地の2021年12月31日における時価の合計額は、再評価後の帳簿価額の合計額を336百万円下回っております。

6. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

① 営業収益	1,422百万円
② その他の営業取引高	38百万円
③ 営業取引以外の取引高	2百万円

7. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	1,572,800株	644,280株	2,396株	2,214,684株

(注) 1. 自己株式の数の増加の内訳は、次のとおりであります。

- ① 取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 636,100株
- ② 譲渡制限付株式の無償取得による増加 7,800株
- ③ 単元未満株式の買取りによる増加 380株

2. 自己株式の数の減少の内訳は、次のとおりであります。

- ① ストック・オプションの行使による減少 2,300株
- ② 単元未満株式の買増請求による減少 96株

8. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳

繰延税金資産	
関係会社株式	822百万円
退職給付引当金	11百万円
長期未払金	115百万円
投資有価証券	26百万円
新株予約権	34百万円
その他	20百万円
繰延税金資産小計	1,031百万円
評価性引当額	△553百万円
繰延税金資産合計	478百万円
繰延税金負債	
有価証券	△13百万円
繰延税金負債合計	△13百万円
繰延税金資産の純額	464百万円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の主な原因別の内訳

法定実効税率	30.46%
(調整)	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△55.01%
評価性引当額の増減	28.47%
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.59%
過年度法人税等	0.74%
住民税等均等割	0.30%
その他	0.62%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.17%

9. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所 (被所 有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
			役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	オプテックス株式会社	100.0	兼任 1名	経営指導等	経営指導料	282	未収入金	38
					システム利用料	206		19
					賃貸収入	106		9
					資金の預り	500	預り金	500
子会社	オプテックス・エフエー株式会社	100.0	兼任 1名	経営指導等	経営指導料	100	未収入金	11
					資金の預り	500	預り金	500
子会社	シーシーエス株式会社	100.0	兼任 1名	経営指導等	経営指導料	167	未収入金	38
					資金の貸付	400	短期貸付金	400

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 経営指導料については、持株会社である当社の運営費用を勘案し決定しております。
 3. システム利用料については、子会社が使用している当社保有の有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費と、それに付随する費用を利用料として請求しております。
 4. 賃貸収入については市場価格等を勘案し、一般的な取引条件と同様の基準により算定しております。
 5. 資金の預りについては、当社が当社グループとの間で契約締結しているグループキャッシュマネジメント制度に係るものであり、市場金利を勘案して利率を決定しております。
 6. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を決定しております。

10. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 665円70銭
(2) 1株当たり当期純利益 10円83銭